

心のバリアフリー基礎知識③

「合理的配慮」って何??

障害者差別解消法の制定により定義された「合理的配慮」。難しいイメージしにくい言葉ですが、7頁で解説した「障害の社会モデル」を理解していると分かりやすくなります。

一言でいうと「障害のある人が、障害があっても当たり前の生活が感じられるように社会が配慮すること」です。具体的には、社会の中にある何らかの障害を取り除いて欲しいという意思が障害のある人から示された時に、負担が重すぎない範囲で対応することです。なお、重すぎる負担があるときでも、理由の説明を行い、他の方法を提案するなど、「話し合い、理解を得るよう努める」ことがとても大切です。合理的配慮は、配慮を必要とする本人と周りの環境によっても変わります。一方的に配慮を提供するのではなく、必ず本人やご家族との対話を通じて、適切な対応を模索することを心がけていきましょう。



3 あなたはどう思いますか?

「障害」「障碍」「障がい」の表記

私の息子は知的障害を伴う自閉症です。最近は「障害」の文字の書き方について様々な議論がありますが、害の字をやさしく書いたところで、心のバリアフリー問題はあまり解決しないと私は思います。

障害者は「害」じゃない、漢字で配慮してますよという気遣いは少々見当違いであり、自己満足感が滲みます。

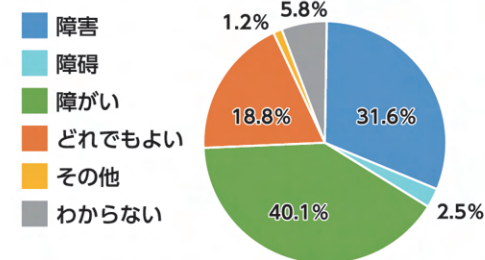
障害者が暮らしにくい社会の障壁を具体的に取除くことの方が、漢字の表記を議論するより大切ではないでしょうか?

障害者が生活に不自由を感じるのは、健常者を前提とした社会の側に配慮不足があるためです。障害の社会モデルを理解していれば、「障害」と書くのが正解だと私は思っています。あなたはどう思いますか?

(M・S)

※イニシャルがある「ちょこっとコラム」は、まち歩きなどに参加した市民から寄稿いただいたものです。

問い: 「しょうがい」の表記について



・母集団: 全国 18 歳以上の日本国籍を有する者
・標本数 3,000 人

出典: 平成 29 年度障害者に関する世論調査 (内閣府)

心のバリアフリー基礎知識④ 私たちはどうしたらいい?



危ない場面を見かけたり、困っている人がいたら声をかけてみるのが大切です。そして、当事者の方がどうしてほしいかということを通じて把握することが大切です。

• 例えば街で、...

白杖を持っている人を見かけると、どうして良いか戸惑うことはありませんか? 気になっていても何となく声が掛けずらく黙って通りすぎてしまうことありますよね? でも白杖を持っている人が全員困っている訳ではありません。迷わずに歩いている人はその場所を良く知っているのです。その代わり街なかで戸惑っている人がいたら優しく声をかけて困りごとを聞いて下さい。障害の有無にかかわらず困っている方への思いやりの気持ちを持つことが大切です。



• 例えばお店で、...

車いすの人の視点は健常者よりもとても低いです。感染症対策で置いてある入口の消毒液もそのまま使うと顔にかかったりします。ファストフード店などの注文カウンターにあるメニューも良く見えません。視覚障害者用に点字のメニューを用意しているお店もまだまだ少ないです。行きたいお店が入口が狭かったり段差があったりとバリアが多いかもしれません。障害者の方が来店したら、店舗のスタッフの方は勿論、周囲のお客さんもサポートができるの良いと思います。

• 様々な場面で、...

私たちの日々の暮らしの中でも様々な配慮を行うことができます
例えば...

健常者は身障者駐車場に車を止めない

バリアフリートイレはその目的に応じて本来使うべき人に使ってもらう
などです。

また、ヘルプマークを持っている人は外見では障害を持っているの
分からない人も多いため、もし困っている人を見かけたら声を掛けるように
しましょう。



4 ヘルプマークとは?

【街で困っている方を見かけたら手助けする行動を起こしてみよう】



義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることができるマークです (JIS 規格)。

ヘルプマークを身に付けた方を見かけた場合は、電車・バス内で席をゆずる、困っているようであれば声をかける等、思いやりのある行動をお願いします。